2012 年 12 月 13 日

KSP メンバーの皆様へ

早いもので 2012 年も暮れようとしています．皆様におかれましては益々ご活躍のこととお喜び申し上げます．さて，2013 年 1 月の KSP 例会では，関西学院大学の三浦麻子が世話人となり，大阪大学の狩野裕先生に話題提供をお願いしています．ご多用とは存じますが，多くの皆様のご参加をお待ちしております．

記

1．日時： 2013 年 1 月 12 日（土）15:30～17:30

2．会場： 大阪大学 基礎工国際棟（旧シグマホール）セミナー室

（豊中キャンパスの案内図を添付）

- 大阪モノレール 柴原駅下車 徒歩約 10 分
- 阪急宝塚線 石橋駅下車 徒歩約 20 分

3．講演題目： 欠測値データ解析の意味と有効性

4．講演者： 狩野 裕（大阪大学 基礎工学研究科 数理科学領域）

5．講演概要：

本講演ではまず実証研究における欠測値問題の重要性を指摘し，欠測値データを分析するための統計的方法論をレビューする．いくつかの実証研究において，欠測値データ解析法を適用しその有効性について議論する．講演内容は下記のような疑問を解消することを目的に構成する．

・Amos でデータセットに欠測があると，平均値と切片を推定にチェックを入れろと言われる．この指示は何を意味するか．

・欠測メカニズム（missing-data mechanism）とは何か．

・核心的に欠測が生じてしまう調査（実験）デザインがある．

○ 欠測のパターンが少ない場合，多母集団同時分析を用いるらしい．それは何故か．

○ 欠測のパターンが多すぎるのは研究のデザインが良くないからであり，デザインを工夫せよと言われた．どうすればよいか．

6．懇親会

例会終了後 18:00 よりミュージアムカフェ坂（豊中キャンパス内）において懇親会（新年会？）を計画しています．参加を予定しておられる方は，事前に関西学院大学・三浦麻子（asarin@kwansei.ac.jp）宛てご連絡を頂ければ幸いです．

三浦 麻子

補足

調査データにおいては欠測値（欠損値，missing values）の存在は当然で完全データが得られることは稀である．一般に，管理された状態で採取されることが多い実験データにおいても欠測は免れ得ない．母集団からある特定の集団がサンプルされないとか，ある特定の集団のみ抽出されるという問題はサンプルセレクションと言われ，この問題も欠測値データ解析の枠組みに入る．欠測がごく少数であれば大勢に影響がないこともある．しかし，欠測がそこそこ含まれている場合，それを適切に扱わないことは分析の信頼性を低め分析結果を歪めることになる．

社会科学における実証研究では，今まで，限定的な状況でしか妥当性がないリストワイズ削除やペアワイズ削除によって欠測値を処理していることが多いように見受けられる．この憂慮すべき事態に対して APA Publication Manual (2009, 6th edition)は，実証論文は欠測の原因（メカニズム）に言及し(e.g., MCAR MAR, or NMAR)，そして，それにどのように対処したかを記述するよう求めている．（狩野先生 談）

以上

懇親会会場
ミュージアムカフェ坂
KSP例会 会場
基礎工学国際棟（旧シグマホール）
セミナー室
連絡先
kano@sigmath.es.osaka-u.ac.jp
狩野居室: 06-6850-6485
狩野ケイタイ: 090-8571-5674
基礎工学部
基礎工国際棟入口
大阪大学
（歩行者用通路）
豊中キャンパス配置図
テニスコート
バレー・バスケットコート
至大阪空港